

明石サッカー協会 審判委員会

2015

審判トレーニングセンター 報告

主催：一般社団法人 明石サッカー協会 審判委員会
開催日時：2015年11月22日（月・祝） 午前9時から午後5時
会場：兵庫県立明石城西高等学校グラウンドおよび会議室
参加者：明石協会所属 サッカー審判員・インストラクター 2～4級 総計24名
派遣インストラクター：日本サッカー協会（兵庫所属） 1級インストラクター 1名

目 的 内 容

- ・ 市内で活動している審判員の育成・強化、技術向上に関する実技指導
- ・ インストラクターの育成・強化と資質向上
- ・ 審判員の親睦・交流、情報交換
- 今年度は「主審/副審との協力」をテーマとし、競技規則の理解度をより深める

【2部構成で開催】

午前・・・講義中心に競技規則（俗称：ルールブック）の理解を深める。

- ① テーマを与え、受講者間で意見交換を行った。
- ② 動画を見て瞬時に判定するテストを実施。

午後・・・実技中心に試合等を活用し、実際どこまでできるのかを検証。

- ① 二種（高校生）トレーニングマッチへ審判を割当。
- ② 試合後、ビデオにて判定に関する検証・指導・評価を行った。
- ③ プラクティカルトレーニング（模擬試合）を行い、実戦さながらの判断・判定を養った。

【 2015明石審判トレセン スケジュール 】

主催	明石協会	インストラクター	広岡1級 INS	開催日程	2015年11月22日(日)	
開催場所	兵庫県立明石城西高等学校		試 合		二種 練習試合	
会場/環境	会場: 兵庫県立明石城西高等学校 講義/試合: 校内 教室ならびにグラウンド		所在地: 兵庫県明石市大久保町谷八木1190番地の7 http://www2.hyogo-c.ed.jp/~josai-hs/			
備品	ホワイトボード、プロジェクター、パソコン、デジタルビデオカメラ、三脚、ビブス、コーン 他					
参加者	審判員	大橋一輝、芦矢恵太、西崎圭一、佐藤翔太 [U-15] (全員S3級)				
	インストラクター	藤本義和(S3級インスト候補)、佐野淳一、野上貴史(S3級インスト)、中村正光(S2級インスト)				
	オブザーバー	市内強化審判員、四種より7名				
スケジュール					打ち合せ	9:00
時間	内 容				終了予定	17:00
9:00~9:15	集合・打ち合わせ				備 考	
9:15~9:30	開会・会長挨拶・委員長挨拶・参加者自己紹介				司会進行:橋	
9:30~10:10	プレゼン1	【 テーマ:副審の任務 】			プレゼン20分	質疑応答15分 講評5分
		審判員: 大橋一輝				
10:10~10:30	講義1:「試合の入り方」	野上3級インストラクター			20分	
10:30~10:40	休 憩					
10:40~11:20	プレゼン2	【 テーマ:副審のファウルサポート 】			プレゼン20分	質疑応答15分 講評5分
		インストラクター: 藤本義和				
11:20~11:40	講義2:「資質向上プレゼン」	審判員: 芦矢恵太			20分	
11:40~	昼食・休憩 (2015フェアでタフでスピーディーなサッカーを DVD放映)					
12:10~	審判員グラウンドチェック・打ち合わせ・移動					
13:00~14:35	[ゲーム] 明石城西高校 VS 明石南高校 (35-10-35) 13:00 KO				ビデオ担当: 久保田	
	前半R: 大橋 A1: 芦矢 A2: 西崎 4th: 佐藤 / 後半R: 大橋 A1: 西崎 A2: 佐藤 4th: 芦矢					
14:35~15:05	プラクティカルトレーニング 担当: 佐野淳一	【 テーマ:主審と副審との協力】			デモストレーター: 城西サッカー部員 オブザーバー全員参加	
15:05~15:25	着替え・移動・ビデオ準備					
15:25~16:15	インストラクターによる分析・評価 担当: 藤本義和 ビデオ検証とディスカッション				統括責任者: 神田	
16:15~16:50	広岡INS 講評					
16:50~17:00	挨拶・閉会					

スケジュール

具体的内容と 各項目の報告

まず、はじめに会場を提供していただきました明石城西高校校長様、同校運動部関係者の皆様、サッカー部関係者様、対戦相手である明石南高等学校サッカー部関係者様のご理解・ご協力のもと、無事「明石審判トレセン 2015」を開催することができました。紙面をお借りして、改めて感謝申し上げます。

今年で5回目となる審判トレセン。今回も講義・実技の2部構成で実施しましたので、その内容をここで報告させていただきます。

<プレゼンテーション1>

事前に指名した審判員に「副審の任務」をテーマに20分間のプレゼンテーション(以下、「プレゼン」と表記)を行っていただくよう依頼。

この発表内容をもとに意見を出し合うよう質疑応答形式で意見交換を行いました。

プレゼン1を担当した大橋審判員。出足は良かったのですが、説明しようとした動画がフリーズ(動かない)してしまい、その設定変更に時間を要し約15分遅れて再スタート。自己紹介では、知る人ぞ知る「大迫半端ねえ」のフレーズを一躍全国区にした(当時、滝川第二高の)選手と学生時代に一緒にプレーしたことがあるとの紹介に少し堅かった会場の雰囲気も和み、主審との連携や判定に関する補助、フラッグテクニック(下写真)について解説しました。

基本となる競技規則と照らし合わせ、1つ1つ丁寧に分かり易く説明し、受講者にとっても各項目を再確認することができました。



体現することで、全員で確認できました

<講義 1>



良い判定は、「良い準備」から始まる

野上 2 級審判員から「試合の入り方」について講義がありました。

まず試合割当が決まり、試合前にすべきことを受講者へ質問。体調管理・日々のトレーニング（走り込み・柔軟体操）・禁酒・用具の確認、大会規定の確認、競技規則の読み返し等、会場から多数回答が出ました。

それを受け、①試合前日までにやっておくべきこと②余裕を持って会場へ到着しておくこと③試合当日の確認（大会規定、フィールド、服色、打ち合わせ、各時間等）・準備すべきこと④試合前（ボール、スタメン・用具チェック等）にすべきこと等、当たり前のことを当たり前にしっかりやっておき、レフェリー自身が精神/肉体的に気持ちよく試合に入っていくための手段と手順が、時系列にて分かり易く説明されました。

「サッカーの魅力を最大限に引き出す」ことへの事前準備は、我々にとっても非常に重要であることを再認識できた意義ある講義となりました。

<プレゼンテーション 2>

「副審のファウルサポート」をテーマに藤本 3 級審判員(3 級インストラクター候補)からプレゼンがあり、競技規則に照らし合わせた内容から今各現場で起こっている事象について、自身の経験談も含めた内容の 20 分となりました。

動画では主審と副審の連携がうまく取れたものが流され、藤本審判員の説明に受講者も「なるほど」とうなずくシーンがありました。原則として、主審が見えない所でファウルがあった場合、旗を挙げて合図することがサポートになるが、一方で主審の判定基準をあまり考慮せず（主審が見えていてアドバンテージを考えようとしているのに副審基準で）目の前の事象について旗を挙げてしまうケースもあり、“援助”のつもりが、“出しゃばり”になっていることも起こっています。

だからこそ、まず「打合せが大事」であること、副審としては「主審のポジションと距離」「主審の判定基準の理解」「アイコンタクトによる意思疎通」「各役割を明確に」を頭に置きながら、競技規則にのっとりその任務と役割を全うすることを改めて考えさせられた時間でした。

<講義 2>

アクティブ3級審判員の芦矢氏には「資質向上プレゼン」をお願いしました。

資質向上とは、必要な知識や感性を磨き能力を高めることをいい、人生の中で勉強・経験されてきたものをサッカーに関わる物事に当てはめて、話を進めていきます。

20代である芦矢氏から「明石のサッカー（四種）」をテーマにサッカーを始めたきっかけ、選手/コーチ/審判の3つの顔を持つ彼から見た、明石の素晴らしさ、課題点、将来像まで独自のキレ味ある話題に終始興味深く耳を傾けることができました。

伝統と格式には敬意を表するが、指導方法や伝達のあり方等、今のトレンドや傾向も重視すべきことも熱弁され、若者らしく清々しい講義に我々審判委員や受講者も組織として考えないといけないことを指摘された思いもあり、貴重な時間となりました。

プレゼンでは、参加審判員からの質疑応答で幾つか質問があり、全員で考え、競技規則を見ながら正確な回答を導いていく作業も審判トレセンでは大きな意味を持っています。特に4級審判員にはこの講義によって監視すべき項目が意外と多くあることも分かり、普段掘り下げて話す機会もあまりないことから判断基準の意識付けやその為の準備（見る角度・距離）についてもレフェリング向上へ繋がるきっかけの1つになったと思います。



明石城西高 対 明石南高 の対戦。
お互いをリスペクトし、持てる力を発揮した。

<実戦研修：二種練習試合>

城西高・南高協力のもと、練習試合を組んでいただき、審判割当をしました。

まずは、グラウンドチェックを割当審判員とオブザーバー審判員全員で行いました。

中村インストラクター部長から確認しておく項目の説明と指導があり、事前準備終了。

校舎4階からは、後に判定に関するビデオ検証するための撮影を行い、割当のないオブザーバー審判員は事前に配付したアセスメントレポート用紙に試合観戦しながら自分で気づいた場面・各事象のメモを取り、あとの反省会で一緒に分析できるような研修の場としました。

試合時間は70分。普段は主に3種（中学生）を吹かれている大橋氏は主審、秋に昇級したばかりの中学生3級審判員佐藤氏が副審に入り、第4審は経験豊富な審判員を割り当て、持てる力を発揮しました。

<プラクティカルトレーニング>

午前の部で勉強した内容をそのままプラクティカルトレーニング（以下、「PT*」と表記）で活かせるかどうかを実践しました。

*PTとは…【試合で起こりうる一場面（今回はタッチライン際の攻防）を切り取り、それを繰り返し再現する中で実際のレフェリングと同様の緊張感を持ちながら審判員が監視・判定すべきことを習得する反復トレーニング法】の1つです。

今年も割り当て審判員だけでなく、参加されたオブザーバー審判員も交わり、「主審と副審の協力度」が試されるトレーニングが繰り返されました。

デモストレーターを城西高サッカー部員の皆さんにお願いし、事前に「タッチライン際のボールの競り合いで、攻撃/守備側どちらが外に蹴り出したか微妙になるように」と指示。時間経過とともに選手間での手の不正使用や進路妨害等も追加（これもインストラクターからの指示）され、いかに主審が見えにくい所を副審がサポートするかを実体験しました。

判定において、①オフサイドラインを視野に入れておくこと②アイコンタクトをしっかりとること③フラッグアップのタイミングを図ること④ファウルサポートへの意識⑤アドバンテージに対する意識と対応⑥差し違いないこと⑦打合せで決まったことを実践する等、タッチライン際のボールアウト判定を主に実技研修/指導を行いました。

審判が監視すべきこと、判断すること、実施すべきことを午前の研修で頭では理解しているはずでもいざ本番になると、うまくいかないシーンがいくつかありました。



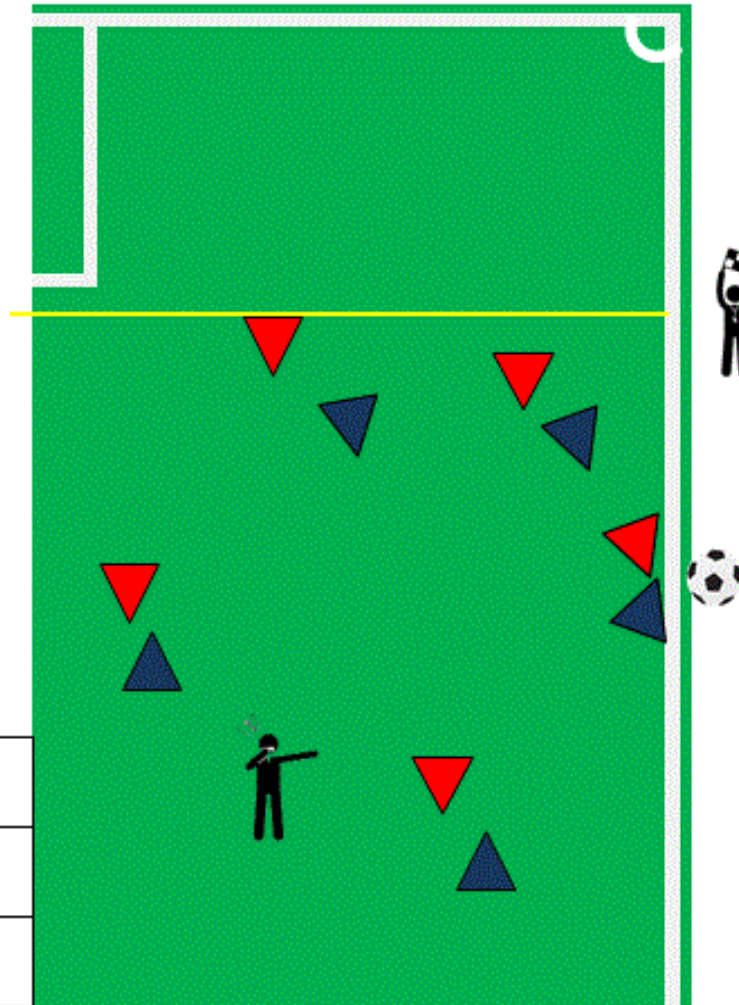
参加されたオブザーバー（研修審判員）も試合時は判定に関するデータをメモに書き綴り、PTでは一緒にトレーニングに励んだ。

プラクティカル

トレーニング

- ◆攻撃/守備 各5名
- ◆フィールドの1/6を使用
- ◆ミニゲーム形式で実施
- ◆タッチライン際での攻防を再現し、主審/副審協力して判定を行う
- ◆ラインアウトするまで何度も繰り返すトレーニング

	守備側 競技者
	攻撃側 競技者
	ボール



「フラッグアップのタイミングはそれでイイの?」「アイコンタクト取れている?」「主審のポジションはそこでイイの?」「どっちがボールを出したの?」と、間違いや指摘項目があれば、その都度インストラクターは審判に問いかけ、説明・修正・理解するよう進めていきます。

正しい判定ができた場合にも「OK!」「ナイスジャッジ」「その位置なら見えるよね。」と声を掛けながら”正誤の情報”を伝えることも非常に重要です。

全部で数パターンをランダムで繰り返し行いましたが、終盤になる頃には適切に判定・処理できるようになり、**一定の成果**が出たように思います。

また、これは審判のスキルアップだけではなく、指導する側も①目的と成果②表現/伝達力③指導力④理解度まで、きちんと全員に正しく伝わっているか、も試される研修でもあります。

基本となる対角線式審判法に沿った上で、場面によってはアシスタントサイドであっても主審は、「事象を見るために近づき、見える角度を保持して現認する。」ことも重要。アシスタントも主審の位置関係やどんなプレーを見に行こうとしているのかを考えながら「4つの目で見ると」ことでより正しく判定できる。

平素の試合では「協力は当たり前」であるが、改めて見るべきポイント・協力すべきポイントをトレーニングを通じて再確認できた。

<反省会：試合後の分析・評価>

練習試合を無事終結させ、教室へ再度集合。

インストラクターと割当審判員が向き合い、反省会・意見交換を行いました。

まずは試合結果（得点・勝敗・懲罰有無・重要事項報告の有無等）の確認を行い、試合に臨むにあたって各審判員からの抱負（近くで見る・主審をサポートする等）に耳を傾け、それに関して自分がどこまでできたかを確認しました。

今回の試合中での事象に関して、良い点、改善すべき点を3点ずつインストラクターが挙げ、長所は伸ばし、改善点には助言・指導を行います。ただここでは判定の**正誤だけをクローズアップ**するのではなく、審判員が感じ・判定した内容について”すり合わせ”が一番重要になってきます。

ビデオ撮影した映像を繰り返し見ながら審判団からその判定理由を聞き出し、良い点は積極的に褒め、自信を付けて更に伸ばすようにし、修正が必要とする場面では「何故そう判定したのか?」「見る位置は?角度は適切だったのか?」「競技規則のどの条文にあてはまるのか?」「選手の意図は?」「接触部位は?」等、監視すべき点について、お互い話し合うことで動きの質や判定精度を上げていくことが反省会（分析/評価/指導）の目的でもあります。

この試合では、全体的にはうまくゲームコントロールされ、できる限り近くで見ようとする姿勢も感じ、大きなミスはありませんでしたが、主審に関しては、ポジショニングの微調整ならびに急行する場面におけるスピードアップ・もう一步先の予測が必要・一步踏み込んで競技者の意図をどう見るか。チームとしては、主審へのサポートのあり方(アイコンタクト&フラッグアップのタイミング、主審の考えと判定基準の理解)について、指導しました。

加えて、PT同様にインストラクターにおいても審判員が次試合で良いパフォーマンスができるようポジティブな意見を盛り込み、**良い所は大いに褒め**、課題点については焦点を絞り込んだ上、建設的な意見やアドバイスを送ることが肝要です。

試合前に配付したレポート用紙にそれぞれが感じたことを記入したオブザーバー審判員も自分の感性や判定基準のフォーカスを合わせられたことと思います。



試合後に映像で振り返る。
判定の検証とポジショニングの確認。

まとめ

反省会→閉会の挨拶が終わり、全カリキュラムを消化しましたが、各講義の終わりには県協会から派遣いただいたインストラクターの広岡様からも多くの助言・指導・指摘・お褒めの言葉をいただきました。

収穫は、①上級を目指す審判員の発掘と現状スキルの現認ができたこと②テーマを絞ったことにより、更なる競技規則の理解が深まった③4種のオブザーバー審判員が参加され、新たな息吹をもたらせたこと④審判トレセンの定着・浸透化が少しずつ図れていること。

1級インストラクターからは「都市協会トレセン制度が始まってから5年目に入りましたが、県下13都市協会の内、全ての年度で実施しているのは明石ともう1協会のみ」「トレセンを継続されている協会からは”昇級者”という結果が出ている」というお褒めの言葉も頂戴しました。

一方、課題は①プラクティカルトレーニングのスムーズな進行②プレゼン方法の工夫（パソコンに依存しない発表の仕方も検討）④オブザーバー参加者の増員⑤プログラムの見直し⑥ビデオ検証の進め方等、改善の余地が沢山あることも認識できました。

上記の通り課題点も沢山ありますが、来年は1つでも改善できるよう努めていきます。また参加審判員が自チームに戻られ、今回のトレセンで得た内容を監督・コーチにも情報展開していただければ、明石全体のレフェリング向上にも繋がり、底上げできるものと信じています。

我々、審判委員会としても少しずつではありますが、明石サッカーの発展の一助となるよう審判員として心身成長できるような活動を進めてまいりますので、今後も引き続きご支援・ご協力のほどよろしくお願いいたします。

最後になりますが、関係各位の皆様方、ご協力いただき本当にありがとうございました。以上で「明石審判トレセン2015」の報告とさせていただきます。

審判委員会 役員一同